



教えていただきました
根本かおるさん
国連広報センター所長。東京大学法学部卒業。テレビ朝日勤務を経て、コロンビア大学大学院で国際関係論を学ぶ。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)勤務などを経て、2013年より現職。

赤ちゃんがすくすく育つ 明るい未来をみんなで作ろう

日常生活の中でゴミ問題に取り組むDファミリー



詰め替え商品やリユース、リサイクルなど、Dさんはごみを減らす生活を工夫しています。



家族と楽しむSDGs



赤ちゃんが暮らしていく10年後の社会のことを考えるのは、ママ・パパになるみなさんの役割でもあります。ここに登場する3ファミリーは自分たちなりのやり方で、赤ちゃんのためにできごとを暮らしに取り入れています。

取材・文◆江頭恵子 イラスト◆大橋明子

住まいを新しくして、エコに暮らすSファミリー



妊娠を機に引っ越したSさん。新居ではCO₂排出を減らすことに取り組まれました。



バランスのよい食生活で環境負荷を減らしたい
2050年には海に住む魚の重量より、流出されるプラスチックごみの重量の方が上回ると試算されています。プラスチックごみを減らすには、暮らしの中での使い捨て量を減らすことが第一歩。エコバッグはもちろん、マイボトルも習慣にしたいですね。

詰替可能な商品を買う、過剰包装をしない、包装無しの量り売りを買うなど、ごみを減らす方法はたくさんあります。

根本さんのアドバイス
食品ロスのお話はよく聞かれるようになりませんが、何を食べるかも大切です。お肉の生産にはより多くの環境負荷がかかるので、食べる量を工夫し、魚や野菜などと組み合わせてバランスのよい食事を心がけるだけで、環境負荷が減らせます。また、海外から輸入される食材より、地産地消の旬のもの食べることも、流通などにかかる環境負荷を減らせます。

赤ちゃん用品は短期間しか使わないものが多いので、レンタルを活用するのもいいでしょう。リサイクルをしたり、上の漫画のようにリメイクをしてファッションを楽しむのもいいと思います。

原料、生産、流通そして廃棄までの流れを考えて
独身や夫婦だけの頃は、都会で暮らす方が便利かもしれませんが、子育て環境としては手狭なことも。自然に囲まれた環境で、のびのびと生活ができるように、地方へ移住するのも妊娠・出産はいいチャンス。家族で移住して地方の街を元気にするのもSDGsになります。

さらに生活に必要な電気を太陽光発電にしたり、断熱効果を高めるグリーンカーテンを作ったりするのも省エネになりますね。

根本さんのアドバイス
太陽光エネルギーの家にしたり、電気自動車にかえたりできるのは素晴らしいですね。ただ、入り口だけで満足するのではなく、「その燃料はどうしているの?」「どうやって運んでいるの?」などにも注目してほしいです。商品やサービスの原料調達から生産・流通、さらに廃棄・リサイクルに至るまでの過程の環境負荷を測ることを「ライフサイクルアセスメント」といいます。家庭に取り入れるものも、それができるまでにどんなエネルギーがかかっているのか? 無理な労働をさせていないか? などを深く考えてみてください。

